

メフムード・タヒール研究員（パキスタン）



はじめまして。私はパキスタンから来ましたメフムード・タヒールです。私は、2015年8月25日からADRCの客員研究員として着任しました。

母国のパキスタンでは、2012年4月からパキスタン国内の気象局国家地震モニタリングセンターで働いています。気象局は気象に関する様々な情報を、パキスタン国内の様々な公的な活動、気象情報を必要とする事業等に対して、提供されます。具体的には、陸海空における安全な交通網の確保、自然災害に対する対策としての減災活動、農業開発、気象予報など様々な分野に対して貢献をしています。私が所属している国家地震モニタリングセンターは、政府機関、非政府機関、国民に対して、早期警報や地震のモニタリングなどの対応を行っています。

国家地震モニタリングセンターでは、私は地震学の専門家として従事しています。例えば、震データの観測、地震パラメーターの評価、自動集計装置から得られた地震データの結果解析などを行っております。また、パキスタンと近隣諸国の地震目録についても取りまとめをしています。その他、現在では、地震に関する研究活動なども行っています。なお、気象局に勤める前は測量局で勤務していた経験があり、そこでは地図のデジタル化などを担当していました。

ADRCでの客員研究員プログラムでは、地震及び津波をモデルケースとして、パキスタン国内にあるグワールという町について検討したいと思います。グワールはパキスタンの沿岸沿いにある町で、近い将来経済的な発展が見込まれ、港湾の中心になるとも期待されています。しかしながら、環境や防災対策についてはまだ課題が多くあるのが現状です。将来発生が危惧される地震及び津波について学ぶことにより、グワールの更なる発展を期待することができると思います。

最後に、このたび客員研究員として招聘をして頂いたADRCと職員の皆様に、深い感謝を申し上げます。